



本社・営業本部	〒103 中央区日本橋箱崎町6-6	TEL(03)3669-8121(代)
東京支店	〒103 中央区日本橋箱崎町6-6	TEL(03)3669-8118(代)
札幌店	〒060 札幌市中央区大通り東6-12-8	TEL(011)261-7141(代)
仙台店	〒983 仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL(022)236-4121(代)
名古屋支店	〒461 名古屋市東区徳川1-11-23	TEL(052)935-8531(代)
大阪支店	〒553 大阪市福島区玉川1-3-18	TEL(06)444-2031(代)
広島支店	〒733 広島市西区南観音7-11-24	TEL(082)291-6331(代)
福岡支店	〒812 福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL(092)411-5416(代)
盛岡営業所	〒020 盛岡市仙北町下野18-1	TEL(0196)35-5575(代)
多摩営業所	〒187 小平市小川町2-1253	TEL(0423)44-6268(代)
宇都宮営業所	〒321 宇都宮市築瀬町字榎内2313	TEL(0286)36-3012
柏営業所	〒277 千葉県柏市若柴297-12	TEL(0471)32-1500
川崎営業所	〒213 川崎市高津区久地597-1セブンエストアート久地1F	TEL(044)844-4700(代)
南九州営業所	〒891-01 鹿児島市上福元町2578-1サンアベニュー1F	TEL(0992)69-5347
新潟マックス(株)	〒955 三条市東裏館2-14-28	TEL(0256)34-2112(代)
戸水マックス(株)	〒310 水戸市松ヶ丘2-3-27	TEL(0292)55-3761(代)
群馬マックス(株)	〒379-22 佐波郡赤堀町大字今井543-2	TEL(0270)62-1123(代)
埼玉マックス(株)	〒331 大宮市日進町3-421	TEL(048)651-5341(代)
千葉マックス(株)	〒284 四街道市大日1870-1	TEL(043)422-7400(代)
横浜マックス(株)	〒241 横浜市旭区さちが丘7-6	TEL(045)364-5661(代)
長野マックス(株)	〒390 松本市笹部1-6-25	TEL(0263)26-4377(代)
長野営業所	〒381-22 長野市青木島1-35-1	TEL(0262)85-6740(代)
静岡マックス(株)	〒422 静岡市敷地1-3-26	TEL(054)237-6116(代)
金沢マックス(株)	〒921 金沢市森戸2-15	TEL(0762)40-1871(代)
富山営業所	〒930 富山市上飯野字樋向割10-8	TEL(0764)52-0182(代)
福井営業所	〒910 福井市和田東2-1711	TEL(0776)27-3378(代)
岐阜マックス(株)	〒500 岐阜市北一色4-3-5	TEL(0582)47-6121(代)
京滋マックス(株)	〒612 京都府京都市伏見区竹田段ノ川原町9	TEL(075)645-5061(代)
兵庫マックス(株)	〒673-04 三木市大村高柳109-1	TEL(07948)3-2121(代)
岡山マックス(株)	〒702 岡山市福富中1-6-14	TEL(086)264-9581(代)
四国マックス(株)	〒761 高松市上天神町761-3	TEL(0878)66-5599
徳島営業所	〒770 徳島市末広2-1-17	TEL(0886)23-0286(代)
松山営業所	〒790 松山市市坪北1-17-1	TEL(0899)58-4031(代)
マックスサービス(株)本社	〒330 埼玉県大宮市宮原町2-99-5	TEL(048)667-6448(代)
マックスサービス(株)大阪	〒553 大阪市福島区玉川1-3-18	TEL(06)446-0815
マックスサービス(株)名古屋	〒461 名古屋市東区徳川1-11-23	TEL(052)935-8210
マックスサービス(株)福岡	〒812 福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL(092)451-6430
マックスサービス(株)広島	〒733 広島市西区南観音7-11-24	TEL(082)291-5670
マックスサービス(株)仙台	〒983 仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL(022)237-0778(代)
マックスサービス(株)札幌	〒060 札幌市中央区大通東6-12-8	TEL(011)231-6487

●マックスお客様ご相談ダイヤル(無料) 0120-22-8358
月～金曜日 午前9時～午後6時

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。

マックススーパーエア・コンプレッサ

AK-HH809
AK-HL809

取扱説明書



⚠ 警告

- 使用前に必ず取扱説明書を読む。
- 本機の設置場所は硬く水平な所とする。不安定な場所では絶対に使用しない。
- 揮発性可燃物(ガソリン、シンナー等)のある場所では絶対に作動させない。
- 感電事故防止の為、アースクリップを必ず接地(アース)する。
- 雨の中、水のかかる場所では絶対に使用しない。
- 高温や直射日光が当たる場所で絶対に使用しない。
- 異常を感じたら絶対に使用しない。
- 本機にエアホスを接続する前に必ずホースとホース金具が完全に固定されていることを確認する。
- 移動時・作業終了時は必ず電源スイッチを切り、ドレンコックをゆるめ、エアタンク内のドレンと圧縮空気を排出する。
- 改造及び衝撃を絶対に加えない。

- この取扱説明書は常時内容が確認できるよう保管してください。
- 本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

MAX®

このたびはマックススーパーエア・コンプレッサをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

⚠ **警告：**この表示は、取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。

⚠ **注意：**この表示は取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。

また、取扱いを誤った場合には、コンプレッサ本来の性能を発揮しないばかりでなく本機の損傷につながる事が想定される場合を表しています。

現品の確認

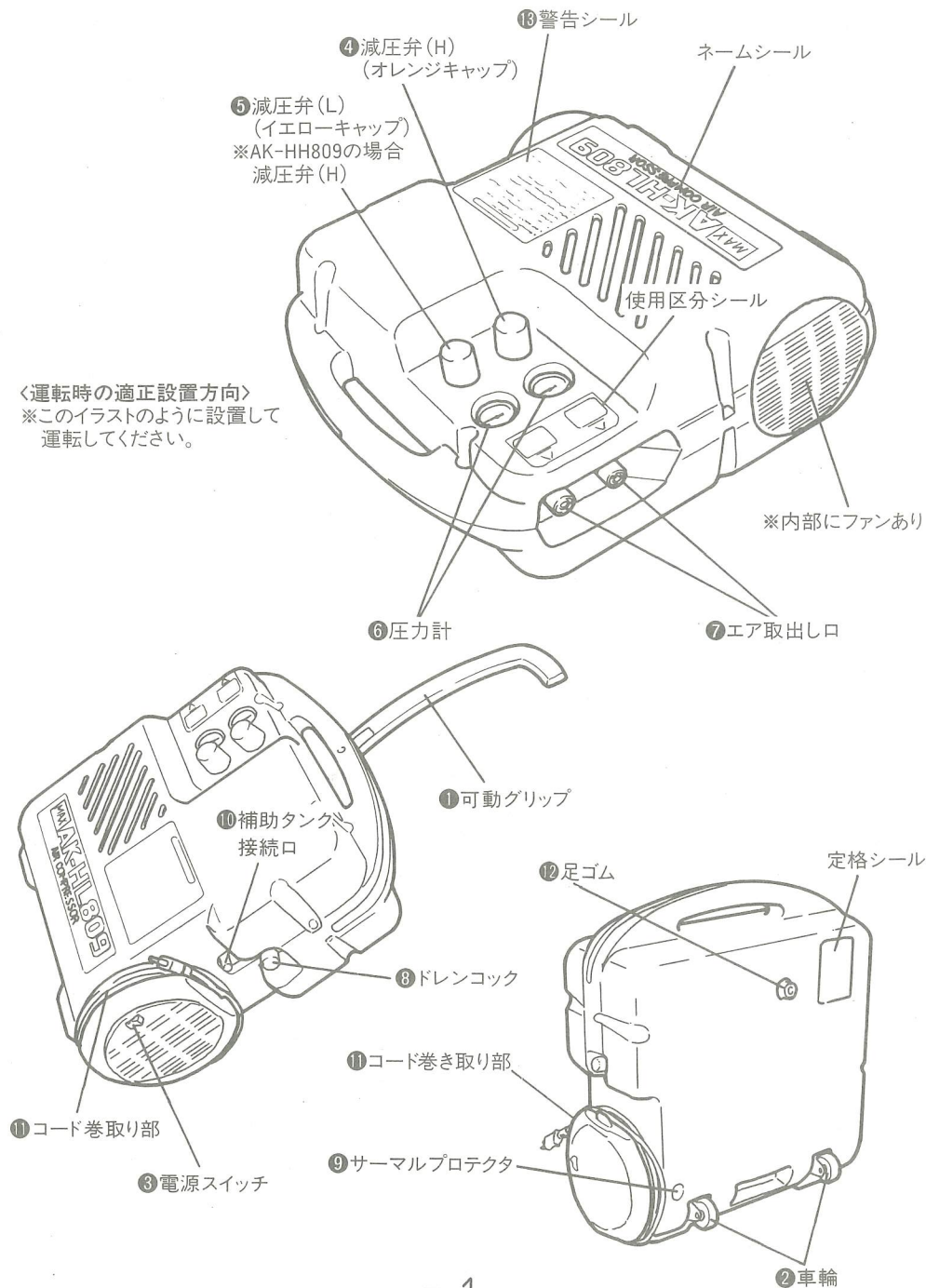
- コンプレッサが到着しましたら次の確認を行ってください。
 - ご注文の製品かどうか。(50Hz用、60Hz用はパッケージと定格シールに明記してあります。)
 - 輸送による破損や部品の紛失がないかどうか。
- ※上記の点で不都合がありましたら、お買求めの販売店へご相談ください。
 ※使用電源の周波数が異なる地域でご使用になる場合には、必ず販売店へご相談ください。

目次

1. 各部の名称	1
2. 安全作業のために	3
3. 安全装置について	12
4. 仕様	13
5. 使用方法	14
6. サーマルプロテクタについて	18
7. 運転中の異常	20
8. その他の留意点	21
9. 補助タンクの接続方法	22
11. 性能を維持するために	25

全国販売拠点、サービス拠点一覧

1 各部の名称



主要部品機能説明

- ①可動グリップ 移動時には引き出し、車輪を利用して簡単に運ぶことができます。
- ②車輪×2
- ③電源スイッチ 電源の入・切 (ON・OFF) をします。
- ④減圧弁(H) スーパーネイラ専用です。スーパーネイラの使用圧力に調整します。
(オレンジキャップ)
- ⑤減圧弁(L) 一般釘打機・エア工具 (使用圧力8気圧以下) の供給圧力を調整します。
(イエローキャップ)
- ※AK-HL809のみ
- ⑥圧力計 (2個) 減圧弁 (H) (L) それぞれの設定圧力値を表示します。(H側は25気圧以下・L側は8.5気圧以下)
- ⑦エア取出し口 AK-HH809—スーパーネイラ専用エアチャック×2ヶ所
AK-HL809—減圧弁(H)側は、スーパーネイラ専用エアチャック
減圧弁(L)側は、一般釘打機用エアチャック
- ※減圧弁の圧力設定により、同時に2通りの圧力帯を使用し、スーパーネイラと一般釘打機・エア工具を利用できます。
- ⑧ドレンコック 一日一回以上作業終了後に圧縮空気とドレン (水など) を抜きます。
- ⑨サーマルプロテクタ 復帰ボタンは奥にあります。
- ⑩補助タンク接続口 補助タンクを増設する時に使用します。
スーパーエア専用のエアチャック (専用補助タンクに付属) と専用エアホース (別売) が必要です。
- ⑪コード巻取り部 コードの取り出し・巻き取りは、必ず設置した状態で行なってください。
- ⑫足ゴム ドレンパイプが内蔵されています。
- ⑬警告シール 使用時は必ず読むこと

2

警告 安全作業のために

本機は、自動釘打機などの空気工具の空気源となるエアコンプレッサです。指定以外の用途、使用方法は重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また本機に触らせないでください。

㊦ 文中の各部品設置箇所は1ページ「各部の名称」にて確認してください。

作業前

①作業環境に応じた防具等を着用する。

作業環境に応じて、保護メガネ・防音保護具・保安帽・安全靴等の防具を着用してください。

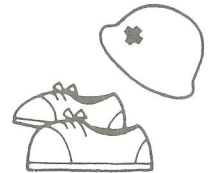
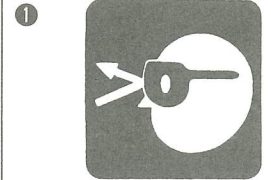
②使用前に必ず点検する。

電源プラグを、コンセントに接続する前に次の点検を必ず行ってください。

1. ボルト・ナットやネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。
2. 各部品が外れていたり傷んでいないか。
3. 電源プラグ・コードに異常がないか。
4. サーマルプロテクタ復帰ボタンを外側から固定していないか。

不完全なまま使うと事故や破損の原因となります。異常のある場合は、お買い求めの販売店又は、マックスサービスへ点検に出してください。

警告



②-1,2



⚠ 警告
安全作業のために

③必ず指定電圧で使用する。

必ずAC100Vのコンセントで使用してください。指定電圧以外の使用は故障の原因だけでなく、発火・発熱の危険性がありますので絶対にしないでください。

④本機の電源に昇圧機などのトランス類は絶対に使用しない。

故障の原因や焼損の原因になりますので絶対にしないでください。

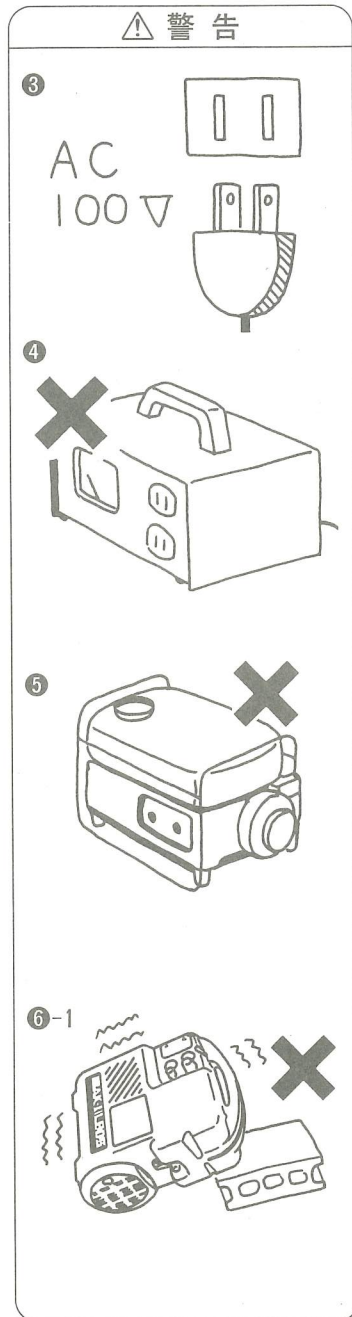
⑤エンジン発電機や直流電源では使用しない。

故障の原因や焼損の原因になります。詳しくは、お買い求めの販売店又は、弊社担当者にお問い合わせください。

⑥本機の設置場所についての注意

1. 硬く水平な場所に必ず設置する。

不安定な場所には絶対に設置しない。移動や落下の危険性のある場所には絶対に設置しないでください。



⚠ 警告
安全作業のために

2. 火気や燃えやすいもののそばには絶対に設置しない。

3. 高温や直射日光が当たる場所は避け、風通しのよい日陰などに設置する。

4. ゴミ(木クズなど)・ホコリの多い場所には設置しない。

5. 雨の中や水のかかる場所・湿気の多い場所には絶対に設置しない。

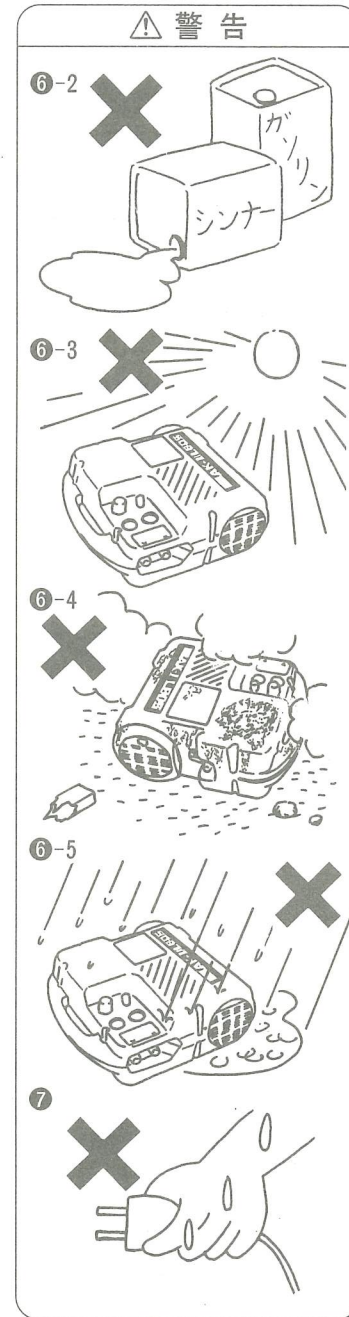
水に濡れたまま使用すると、感電したり短絡(ショート)して焼損・発火による火災の恐れがありますので、絶対にしないでください。

6. 適正な設置方向に必ず設置する。

1ページ「各部の名称」イラストを参考に適正な設置をしてください。

⑦濡れた手で絶対に触れない。

濡れた手で電源プラグ等を持つと感電する恐れがありますので、絶対にしないでください。



⑧感電事故防止の為、アースクリップを必ず接地（アース）する。

アース線をガス管等に取付けることは危険ですので、絶対に接続しないでください。

※アースの埋め込みやアース線を接続するような工事は電気工事士の資格が必要です。最寄りの電気工事店にご相談してください。また接地と共に漏電しゃ断器の設置された電源に接続されることをおすすめします。

⑨電源コードは大切に扱う。

電源コードを引っ張って本機を移動させたり、電源コードを引っ張ってコンセントから電源プラグを引き抜いたりすると、電源コードを傷め、断線・短絡（ショート）の原因になります。また、電源コードが刃物類や高熱のもの、油、グリースなどに触れないように注意してください。電源コードが損傷した場合は修理に出してください。

⑩本機の通風孔や回転部（ファン部）などに異物を入れない。

故障、事故の原因となります。

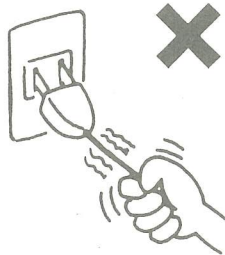
⑪正しい服装で作業する。

回転部（ファン部）などに巻きこまれないよう、袖口の開いたものや手袋・ネクタイ・ネックレスなどは着用しないでください。

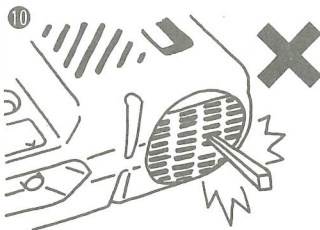
⚠ 警告



⑧



⑨



⑩

⑪



⑫本機にエアホースを接続する前に必ずエアホースとホース金具が完全に固定されていることを確認する。

⑬本機が正常に作動するか使用前に必ず点検・確認する。正常に作動しない場合は、使用しない。

14ページの「運転前の点検・確認」に沿って点検してください。

※下記の場合は、故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

1. 運転開始後、6分以上待ってもモーターが自動停止しない。

（補助タンク接続時は運転時間が異なります。）

2. 本機内部で異音・エア漏れ音がする。

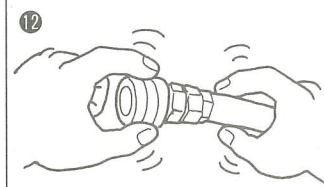
3. 減圧弁調整ハンドルを操作しても圧力計の表示圧力が変化（上昇・下降）しない。

異常のある場合は、お買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

⑭大切に扱う。

落としたり、ぶつかけたりすると故障の原因となります。落としたり、ぶつかけたりした場合は、外観上異常がなくても、お買い求めの販売店又は、マックスサービス㈱へ点検・修理に出してください。

⚠ 警告



⑫

⑬-2



⑭

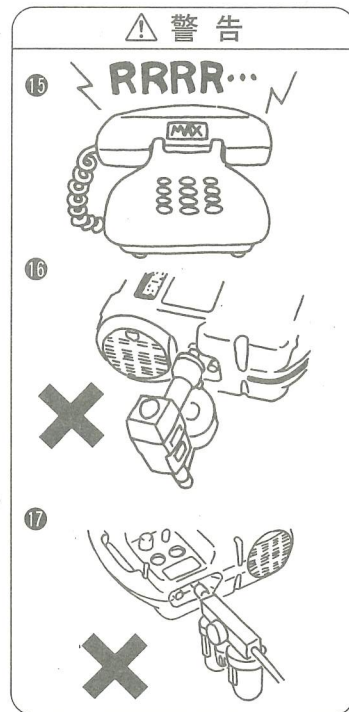


⚠ 警告
安全作業のために

⑮本機を長時間連続して運転する用途には使用しない。
釘打機のエアー源以外の用途や、長時間連続運転となる用途に使用する場合は、あらかじめ必要性能などを取扱い販売店や弊社担当者に確認してください。

⑯補助タンク接続口に直接空気工具を接続することは絶対にしない。

⑰コンプレッサのエアチャックに、直接3点エアセット等の重量物を取付けない。
コンプレッサの振動で本機の故障を招くおそれがあります。



作業中

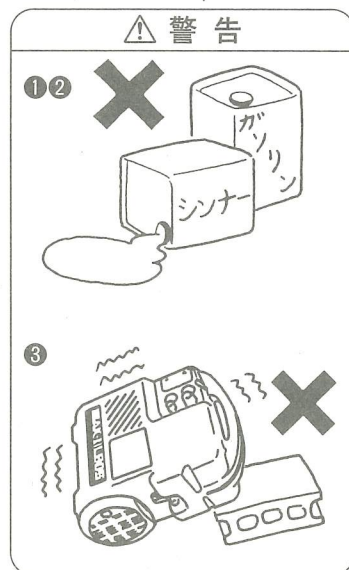
①揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

ガソリン、シンナー、ガス、塗料、接着剤などのそばでの使用は、引火または爆発の恐れがあるので絶対にしないでください。

②火気や燃えやすいもののそばでは絶対に使用しない。

③不安定な場所では絶対に使用しない。

移動や落下の危険性のある場所では絶対に使用しないでください。



⚠ 警告
安全作業のために

④高温や直射日光が当たる場所は避け、必ず風通しのよい日陰などで使用する。

⑤ゴミ(木クズなど)・ホコリの多い場所では使用しない。

⑥適正な設置方向で必ず使用する。

1ページ「各部の名称」イラストを参考に適正な設置をしてください。

⑦雨の中、水のかかる場所では絶対に使用しない。

雨の中、水のかかる場所、濡れた場所、湿った場所では絶対に使用しないでください。感電事故のもととなります。また、本機を雨の中に放置しないでください。

⑧箱の中や狭い場所(密閉された車内など)では絶対に使用しない。

異常発熱をまねき、故障・事故の原因となります。あります。



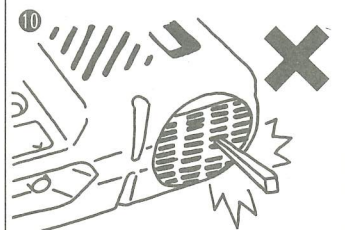
⚠ 警告
安全作業のために

⑨ 上部に座ったり、物をのせることは絶対にしない。



⑩ 回転部（ファン部）などには絶対に異物や手を近づけない。

回転部にはさまれたり、巻き込まれたりして怪我をすることがありますので絶対にしないでください。



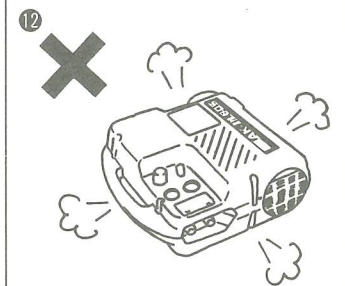
⑪ 運転時、運転直後のエアチャック、金属部等には絶対に素手で触らない。また、熱に対して溶けるような材質（ナイロン製等）をエアチャック、金属部等に触れさせない。

空気の圧縮熱で高温になっていることがありますので、火傷をする恐れがあります。移動などは、熱が下がってから行なってください。



⑫ 異常を感じたら絶対に使用しない。

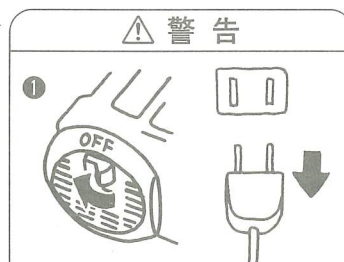
機械の調子が悪い時、異常に気づいた時は直ちに電源スイッチを切って（OFFにして）、電源プラグをコンセントから抜き、使用をやめ、点検・修理に出してください。



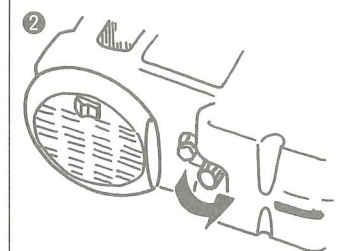
⚠ 警告
安全作業のために

作業後

① 作業終了時には必ず電源スイッチを切って（OFFにして）、電源プラグをコンセントから抜く。



② 作業終了時には、ドレンコックをゆるめ、エアタンク内のドレンと圧縮空気を排出する。



③ 本機を大切に手入れする。

より安全に性能を発揮させるため、損傷のない最良の状態に保ってください。グリップ部は乾燥させ、清潔にし、油やグリースが付かないようにしてください。

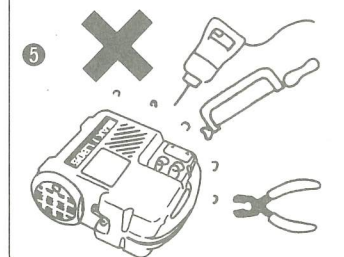


④ 本機を分解しない。

万一故障した時は、点検・修理に出してください。



⑤ 本機に改造や衝撃を加えることは、絶対に行わない。本機を改造したり、衝撃を加えると本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。



3 安全装置について

⚠ 警告

- 作業前には、本機が正しく作動するか確認する。また異常を感じたら絶対に使用しない。

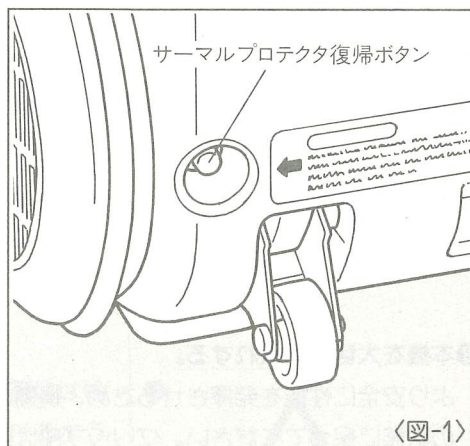
本機には安全を確保するため次のような安全装置がついています。

●サーマルプロテクタ

(モータ焼損防止装置)

不適切な電源や配線方法で本機を使用し、モータ内に異常電流が流れた場合や圧縮機本体に異常がある場合に、電気回路を遮断しモータの運転を停止させ、モータ焼損を防止する装置です。(18ページ参照)

〈図-1〉



〈図-1〉

●タンク部用リリーフバルブ (安全弁)

本機は圧力スイッチにより、エアタンク内圧が約30kgf/cm² (2.94MPa) に達すると自動的にモータの運転を停止します。圧力スイッチの故障によってエアタンク内圧が異常高圧になった場合、リリーフバルブより音を発し、エアタンク内圧を減圧します。その場合は、ただちに本機の使用を中止し、お買い求めの販売店又は、マックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

※本機のリリーフバルブ (安全弁) は、機体 (カバー内) に設けられています。圧力スイッチおよびリリーフバルブ (安全弁) の設定圧力の調整はできません。

●減圧弁L部用リリーフバルブ (安全弁) ※AK-HL809減圧弁L部に採用

AK-HL809の減圧弁L側は、一般釘打機・エア工具 (使用圧力8気圧以下) に使用します。減圧弁Lの故障によって2次配管 (減圧弁L後) が異常高圧になった場合、リリーフバルブより音を発し、2次配管内圧力を減圧します。その場合は、ただちに本機の使用を中止し、お買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

4 仕様

項目	商品仕様			
商品名	マックススーパーエア・コンプレッサ			
商品記号	AK-HH809〔5〕	AK-HH809〔6〕	AK-HL809〔5〕	AK-HL809〔6〕
寸法	高さ260×幅560×長さ610mm			
重量	37kg			
制御方式と圧力制御範囲	圧力スイッチ式 OFF圧 30kgf/cm ² (2.94MPa) ON圧 25kgf/cm ² (2.45MPa)			
モータ	単相誘導電動機750W			
使用電源	AC100V〔50Hz〕	AC100V〔60Hz〕	AC100V〔50Hz〕	AC100V〔60Hz〕
負荷電流	13A	11A	13A	11A
回転数	1430rpm	1720rpm	1430rpm	1720rpm
吐出量(23kgf/cm ² 運転時)	60 ℓ / min			
気筒径(mm)×行程(mm)×気筒数	47×41×1 47×12×1	47×33×1 47×12×1	47×41×1 47×12×1	47×33×1 47×12×1
空気タンク容量	9 ℓ			
減圧弁の圧力調整範囲	減圧弁(H) 0.5~25kgf/cm ² ×2ヶ所		減圧弁(H) 0.5~25kgf/cm ² 減圧弁(L) 0.5~8.5kgf/cm ²	
リリーフバルブ(安全弁)の設定圧力	33kgf/cm ² (タンク部)		11kgf/cm ² (減圧弁部) 33kgf/cm ² (タンク部)	
空気取出口	スーパーネイラ専用エアチャック×2ヶ所		スーパーネイラ専用エアチャック、一般用エアチャック	
	補助タンク用取出口付(専用ネジ)			

5 使用方法

運転前の点検・確認

⚠ 警告

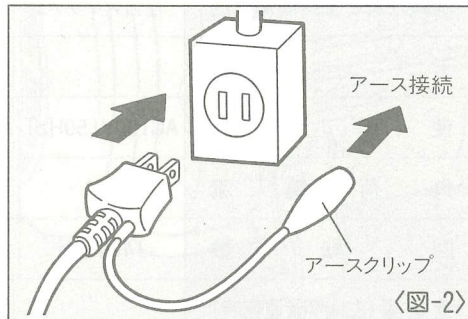
- 使用前にボルトナットやネジの緩み、各部部品の欠損がないか点検する。
- 必ず指定電圧で使用する。
- 適正な設置方向で必ず使用する。

※3ページからの「安全作業のために」の通り正しく使用してください。

※文中の圧力数値については、圧力計の読み取り誤差を含んでいません。

- ①電源はAC100Vを使用し、本機の電源スイッチを切った（OFFにした）状態でアースクリップを接地（アース）してから電源プラグをコンセントに差込みます。

〈図-2〉

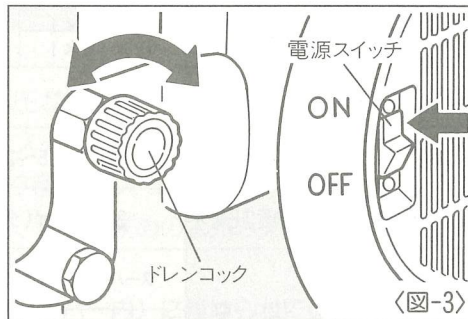


〈図-2〉

※やむを得ず延長コードを使用する場合は15A以上で有効断面積が2mm²以上、長さ30m以内の電線としてください。

- ②ドレンコックを全開に緩めて（左回し）において、電源スイッチを入れ（ONに）します。

- ③モータが回転し、ドレンパイプ（足ゴム内）から空気が出ていることを確認してください。



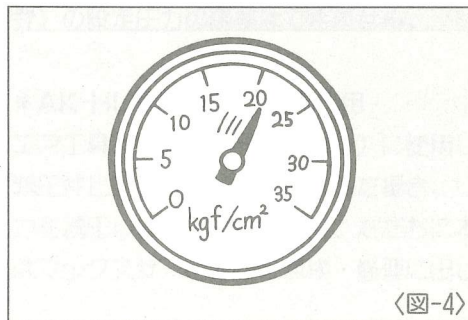
〈図-3〉

- ④ドレンコックを締めて（右回し）、ドレンコックからエアもれが無いことを確認してください。

〈図-3〉

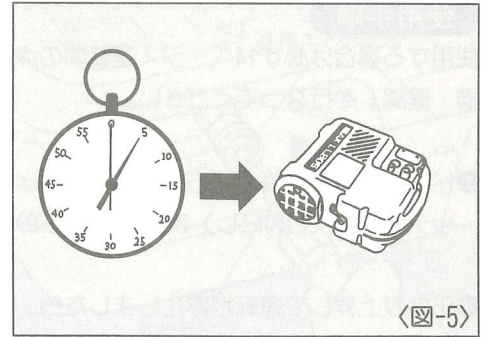
- ⑤減圧弁調整ハンドル（2ヶ所）を、止まるまで右回転させ圧力計の指針が動く（上昇する）ことを2ヶ所とも確認してください。

〈図-4〉



〈図-4〉

- ⑥5分程度で自動的に圧縮運転が停止することを確認してください。（補助タンク接続時は運転時間が異なります。）〈図-5〉

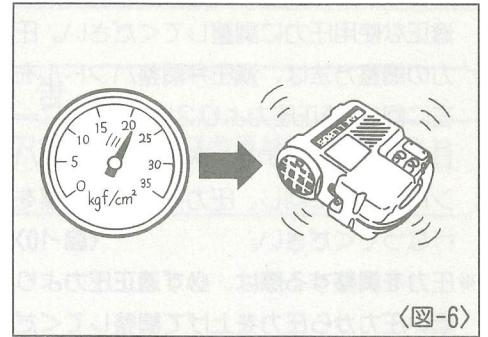


〈図-5〉

- ⑦運転停止後、5分程度待つて、異音・エアもれや再起動運転しないことを確認してください。

- ⑧ドレンコックを少し緩め（左回し）圧縮空気を排出します。圧力が低下すると、運転が再開することを確認してください。

〈図-6〉

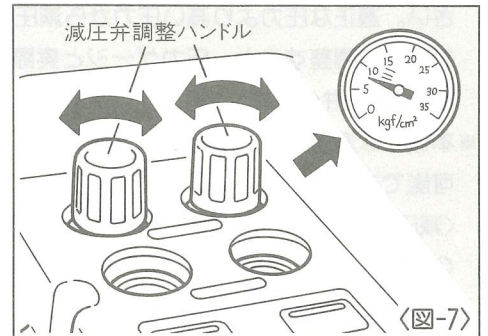


〈図-6〉

- ⑨ドレンコックを締めて（右回し）圧縮運転中に電源を切り（OFFにして）運転が停止することを確認してください。

- ⑩減圧弁調整ハンドル（2ヶ所）を、左回転させ圧力計の指針が下がる（エアもれ音が発生することがあります。）ことを2ヶ所とも確認してください。

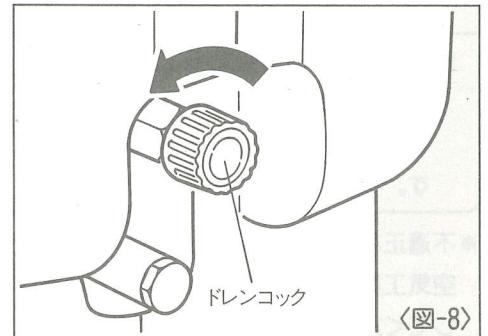
〈図-7〉



〈図-7〉

- ⑪ドレンコックを緩め（左回し）、エアタンク内の圧縮空気とドレンを全て排出してください。

〈図-8〉



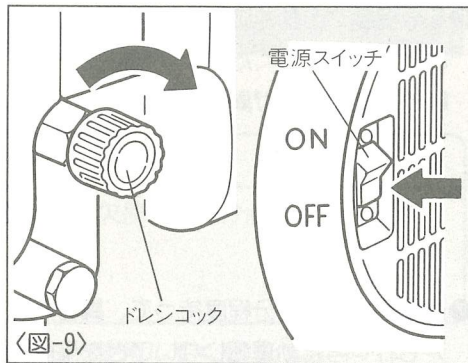
〈図-8〉

運転前の点検・確認で以上のある場合は、お買い求めの販売店又は、マックスサービスへ点検・修理に出してください。

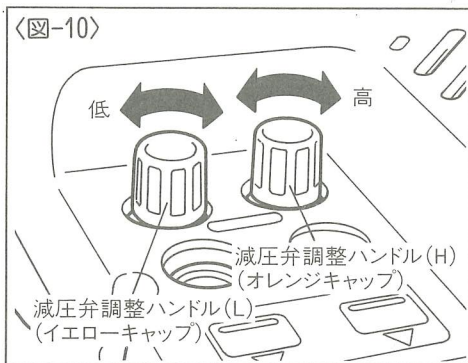
使用手順

使用する場合は必ず14ページ「運転前の点検・確認」を行なってください。

①ドレンコックを締め（右回し）電源スイッチを入れ（ONにします）。〈図-9〉



②圧力が上昇して運転が停止しましたら、減圧弁調整ハンドルを回して空気工具の適正な使用圧力に調整してください。圧力の調整方法は、減圧弁調整ハンドルを左に回し、適正圧力より2kg/cm²以下に一旦減圧を行ないます。次に減圧弁調整ハンドルを右に回し、圧力を上げて調整を行なってください。〈図-10〉



※圧力を調整する際は、必ず適正圧力より低い圧力から圧力を上げて調整してください。適正な圧力より高い圧力から減圧を行ない調整すると、圧力ゲージと実際の使用圧力に約3kg/cm²程度の誤差が生じます。（減圧弁の特性）

※本機には減圧弁が2ヶあり、2通りの圧力を複数のエア工具で同時に使用することが可能です。

〈減圧弁 H〉スーパーナイラを接続し、使用できます。

〈減圧弁 L〉一般釘打機（使用圧力8気圧以下）を接続し、使用できます。

※AK-HL809のみ

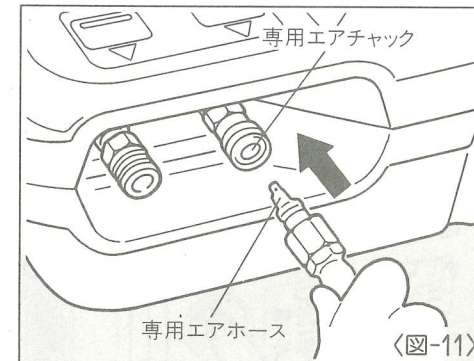
⚠ 警告

●空気工具の使用空気圧を必ず守る。

減圧弁によって供給圧力を調整しないで空気工具を使用すると、空気工具の性能を著しく低下させたり、寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

※不適正な圧力（必要以上に高い圧力）で空気工具を使用すると空気消費量が増加し、空気工具の使用性能が著しく低下することがあります。必ず適正圧力に調整して使用してください。

③供給圧力の調整が終わりましたら、空気取出口（エアチャック）にエアホースを接続して作業を開始できます。〈図-11〉



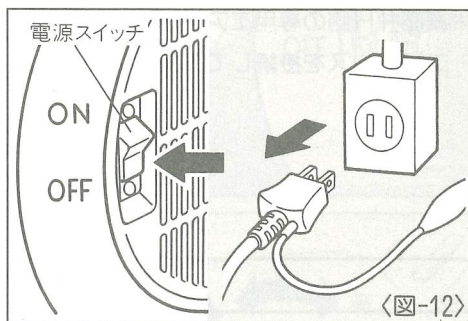
※減圧弁H側の専用エアチャックには専用エアホースを接続してください。

⚠ 警告

●本機にエアホースを接続する前に必ずエアホースとホース金具が完全に固定されていることを確認する。

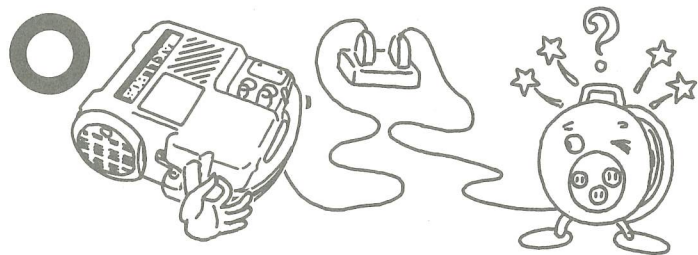
運転時に電圧降下が大きかったり、機械内部に異常があったりすると、モータ焼損防止用のサーマルプロテクタが作動してモータが停止することがあります。この場合は、

- ①電源スイッチを切って（OFFにして）、電源プラグをコンセントから抜いてください。



- ②電源状態が適切か、延長コードが長すぎたり、細すぎないか、又同一電源で他の電動工具等を使用していないかを調べ、その状態であれば延長コードの使用をやめたり、電動工具等の使用をやめます。

※延長コード使用による電圧降下のトラブルを、未然に防止する為に、なるべく延長コードの接続は避けて、直接、元電源に本機を接続してください。



30mの延長コードを接続し、本機を運転する際の電圧降下予測値(コード断面積別参考値)

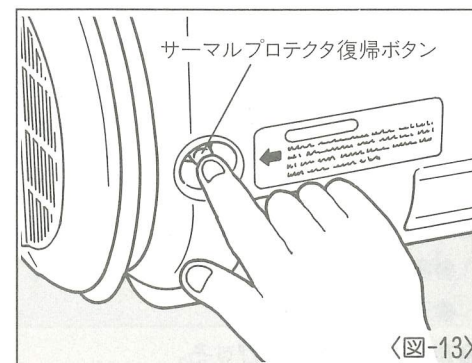
	元電源	太さ1.25mm ² のコード接続後	太さ2.0mm ² のコード接続後	太さ3.5mm ² のコード接続後
AK-HL809 AK-HH809	100V	約90V	約94V	約97V

→元電源で100V未満の時や、同時に他の電動工具を使用した時は、電圧降下がより一層激しくなります。

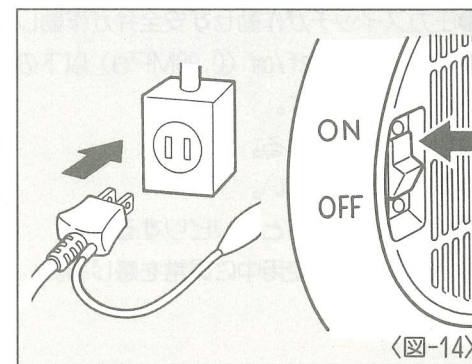
※同一電源で他の電動工具を使用し、総消費電流値が電源ブレーカの電流容量を超える
と電源ブレーカが作動することがあります。

同一電源で他の電動工具との併用はさけてください。

- ③モータが十分に冷えてからサーマルプロテクタの復帰ボタンを「カチッ」と音のするまで指で強く押ししてください。(モータ高温時は、復帰ボタンを押しても作動しないことがあります。)



- ④電源プラグをコンセントに差込み電源スイッチを入れて（ONにして）運転を再開してください。



- ⑤電源・配線に問題が無いのにサーマルプロテクタが作動する場合は、機械の故障が考えられます。お買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

⚠ 注意

- 不適切な電源や配線を使用して極端に電圧が降下した場合には、サーマルプロテクタが動作せずにモータがうなる状態が続き、モータ焼損の原因となります。
- サーマルプロテクタ復帰ボタンを外部から固定したり、改造した場合にはサーマルプロテクタが動作せずにモータがうなる状態が続き、モータ焼損の原因となります。
- やむを得ず巻き取り式延長コードを使用する場合に、延長コードを巻いたまま使用すると熱を持ち、焼損・断線等の原因となります。

7 運転中の異常

⚠ 警告

- 異常を感じたら絶対に使用しない。

次のような異常を感じた時は、直ちに電源スイッチを切って（OFFにして）電源プラグをコンセントから抜き、使用をやめ、お買い求めの販売店又は最寄りのマックスサービス欄まで、点検・修理に出してください。

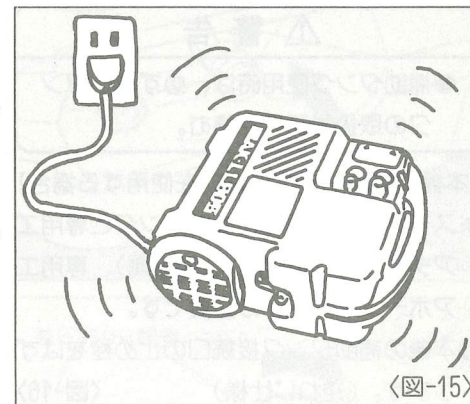
- ①電源、配線に問題が無いのに。（18ページ～19ページ「サーマルプロテクタ」の項参照）
 - 電源スイッチを入れても作動しない。
 - モータがうなる。
- ②運転中に異常な音がする。
- ③圧力スイッチが作動せず安全弁が作動し、空気が吹き出す。
- ④空気圧が10kgf/cm²（0.98MPa）以下のときにリリーフバルブ（安全弁）が作動し、空気が吹き出す。
- ⑤空気が漏れている。
- ⑥圧力が上昇しない。
- ⑦金属部に触れるとビリビリする。
- ⑧上記以外でも使用中に異常を感じる。

8 その他の留意点

①本機を寒冷地で使用する場合

凍結による作動不良を防止するため。

- ①本機をあらかじめ暖めてから運転する。
- ②電源プラグを直接、元電源に接続し暖気運転（ドレンコックを開放したまましばらく運転させる）の後、使用する。止むを得ず延長コードを使用する場合は、上記の措置を行なった上でコード断面積が太く（2mm²以上）短いコードを使用してください。 〈図-15〉



②補助タンクを使用する場合

誤接続による、事故や性能低下を防止するため。

- ①使用する補助タンクの取扱説明書を必ず読む。
- ②本機の補助タンク接続口には必ず指定の専用エアチャックを使用する。マックス純正スーパーエア用補助タンクには、付属品として接続用専用エアチャックが同梱されています。
- ③本機と補助タンクをつなぐ専用エアホース継手の脱着は、両機のエアタンク内に圧縮空気が充填されていないことを確認して行う。

⚠ 警告

- 補助タンク使用時は、必ず補助タンクの取扱説明書を読む。

【本機の補助タンク接続口を使用する場合】

※スーパーエア専用の補助タンクと専用エアチャック(補助タンクに付属)、専用エアホース(別売)が必要です。

- ①本機の補助タンク接続口の止め栓をはずします。(逆ねじ仕様) <図-16>

⚠ 警告

- エアタンク内の圧縮空気が全て排出されていることを必ず確認してから止め栓をはずす。

- ②指定の専用エアチャックを取付けます。

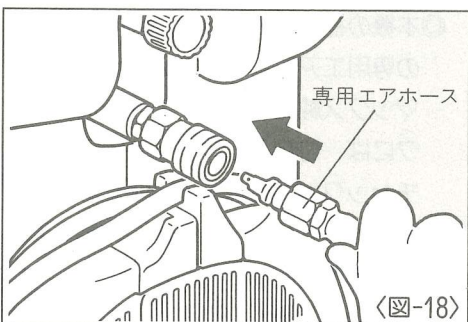
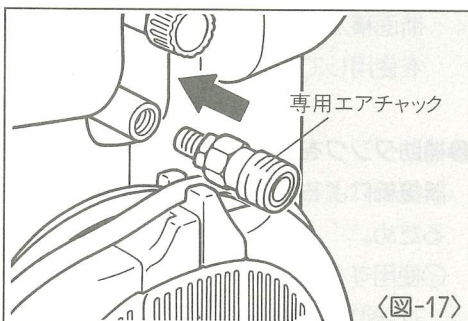
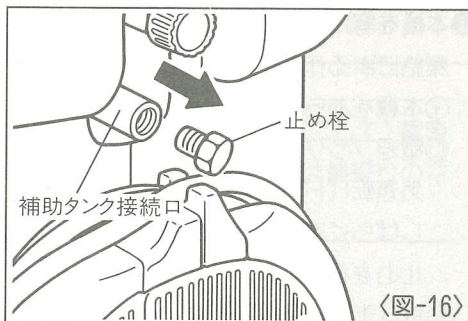
<図-17>

専用エアチャックはスーパーエア専用の補助タンクに、付属品として同梱されています。

- ③専用補助タンク内へエア供給するための専用エアホース(別売)のエアプラグを取り付けたエアチャックに接続します。

<図-18>

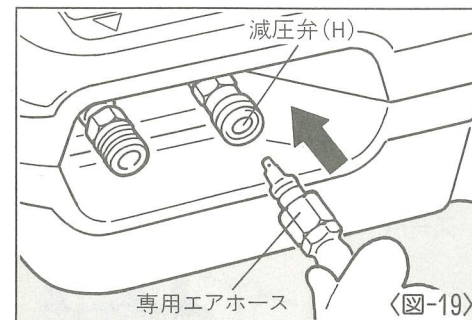
- ④エアタンク内に圧縮空気を充填します。
※使用する空気工具の適正な使用圧力に減圧弁にて調整してから使用してください。



【本機の空気取出口・減圧弁(H)後を使用する場合】

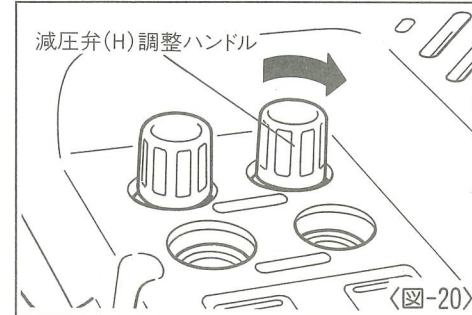
※スーパーエア専用の補助タンクが必要です。

- ①専用補助タンク内へエア供給するための専用エアホース(別売)のエアプラグを、本機の空気取出口エアチャックH(減圧弁H後)に接続します。 <図-19>



- ②本機の減圧弁(H)調整ハンドルを右へいっぱい回してください。 <図-20>
→補助タンク内には減圧弁(H)より取り出せる最高圧力を充填します。

- ③エアタンク内に圧縮空気を充填し、専用補助タンクの減圧弁にて、空気工具の適正な使用圧力に調整します。



【本機の空気取出口・減圧弁(L)後を使用し、一般の補助タンク(充填最高圧9.9kgf/cm²=0.97MPa未満)を使用する場合】

※AK-HL809の場合に使用できます。

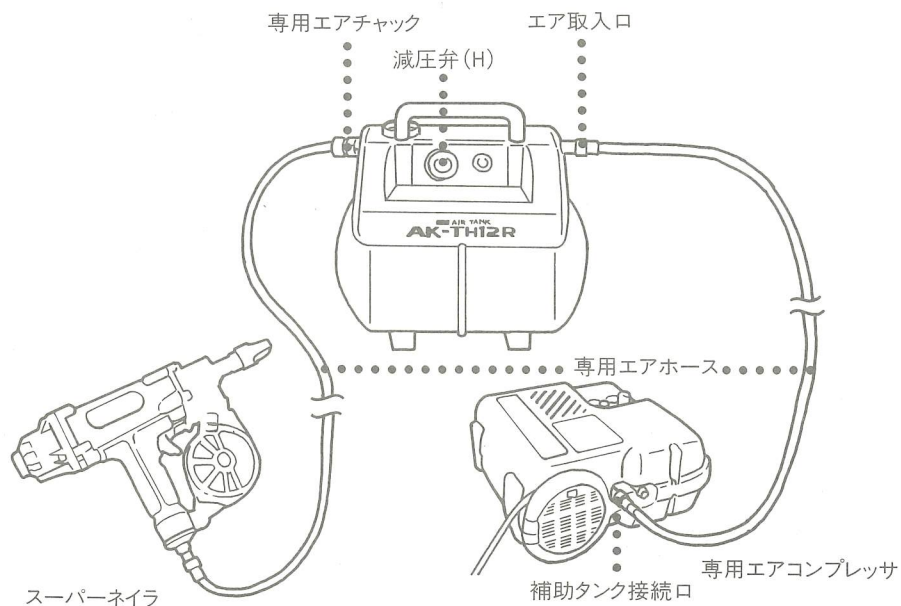
※エア取出口(減圧弁付)のある補助タンクが接続できます。

- ①補助タンク内へエア供給するための一般工具用エアホース(別売)のエアプラグを、本機の空気取出口エアチャック(減圧弁L後)に接続します。
- ②本機の減圧弁L調整ハンドルを右へいっぱい回してください。
→補助タンク内には減圧弁(L)より取り出せる最高圧力を充填します。
- ③エアタンク内に圧縮空気を充填し、補助タンクの減圧弁にて、空気工具の適正な使用圧力に調整します。

補助タンクとコンプレッサの接続使用例

〈スーパーネイラを使用する場合〉

- ①本機の補助タンク接続口と専用補助タンク(AK-TH12R)のエア取入口を専用エアホースで接続します。
(マックス専用エアホース以外は使用できません。)
- ②専用補助タンクの減圧弁で調整を行い、専用エアチャックに専用エアホースを接続し、スーパーネイラを使用してください。



〈一般釘打機・エア工具を使用する場合〉

- ①本機の補助タンク接続口と専用補助タンク(AK-TL12R)のエア取入口を専用エアホースで接続します。
(マックス専用エアホース以外は使用できません。)
- ②専用補助タンクの減圧弁で調整を行い、エア取出口に一般エア工具用エアホースを接続し、工具を使用してください。

10 性能を維持するために

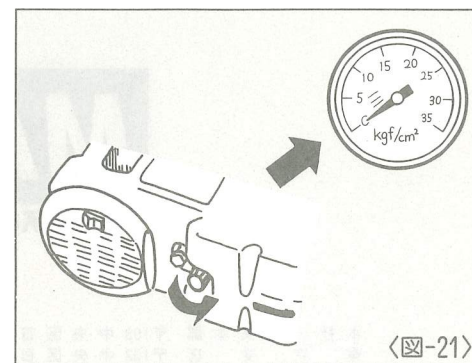
①本機の水抜きをする。

作業終了時は、ドレンコックを開放し、エアタンク内の圧縮空気とドレン(水)を圧力計の針が0を指すまで全部抜いてください。

〈図-21〉

※同時に減圧弁調整ハンドル(2ヶ所)を左へいっぱい止まるまで回してください。

※水抜きを行わないとエアタンク内に錆が発生し、故障の原因となります。



〈図-21〉

②定期的に点検する。

本機の性能を維持する為に清掃、点検を定期的に行なってください。点検はお買い求めの販売店又はマックスサービス(株)にお申しつけください。

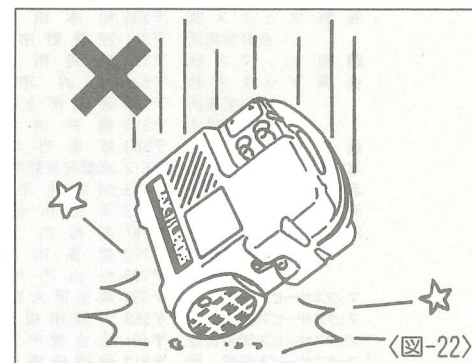
③本機を大切に扱う。

落としたり、ぶつけたり、叩いたりすると変形・亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落としたり、ぶつけたり、叩いたりしないでください。

〈図-22〉

④使用毎に必ず点検する。

3ページの「安全作業のために」の内容に沿って点検・確認を行なってください。



〈図-22〉